

# 薪ストーブによる火災を防止しましょう

近年、薪ストーブによる火災が増加しています。盛岡消防本部管内では、薪ストーブに起因する火災が平成30年に3件、令和元年(平成31年)に9件、令和2年は既に3件発生しています。薪ストーブは誤った方法で設置、使用すると、火災を引き起こす可能性がありますので、次のことに注意しましょう。

## 薪ストーブや煙突は正しく設置する

煙突の貫通部分が木材等の可燃物と接していると、遮熱材の材質や厚みの不足から、煙突の熱が伝わり火災になる場合があります。薪ストーブを設置する場合は、知識のある専門業者に依頼するようにしましょう。

## 周囲に燃えるものを置かない

洗濯物を干すと、繊維から水分が蒸発して軽くなるため、熱気による空気対流で、薪ストーブの上や近くに落ちて着火する可能性があります。薪ストーブの近くで洗濯物を干したり、周囲に燃えやすいものを置かないようにしましょう。



## 定期的に点検や清掃を行う

煙突内に煤やタールが溜まると、異常燃焼を起こします。定期的に薪ストーブの本体、煙突や煙突の貫通部分の点検を行いましょう。

## 乾燥した薪を使用する

湿った薪を使用すると、煤やタールが多く発生し、煙突内に溜まりやすくなります。十分に乾燥した薪を使用しましょう。

## 薪ストーブから離れる際は、燃烧室の扉や蓋を閉める

燃焼室の扉や蓋が開いていると、火の粉が飛散して火災になる場合があります。薪ストーブから離れる際は、扉や蓋を必ず閉めましょう。

## 灰の処理は正しく行う

灰はゴミ箱やバケツに捨てずに、火が完全に消えたことを確認してから、蓋のある不燃性の取灰入れに入れて処理しましょう。